

# 三朝温泉病院 リハビリ通信

発行日  
平成29年9月11日  
Vol 1  
発行責任者: 山根 隆治

## 【リハビリテーション科紹介】

今回は、記念すべき第1号発行に伴い、リハビリテーション科の紹介をさせていただきます。現在、理学療法士30名、作業療法士9名、言語聴覚士1名、診療助手4名、計44名の所帯で日々患者さん治療にあたっています。

院内でのリハビリテーションは勿論のこと、三朝町を中心に地域活動にも積極的に参加し、各種健康教室や、健診などに講師派遣しています。またボランティア活動として地域のスポーツ活動の支援なども行っています。平均年齢30歳代の若い力を武器に行動力と団結力で鳥取県中部圏域のリハビリテーションを牽引していくつもりで日々精進しています。

「」で活動の一部を紹介していきますと思います。

## 【三朝町いきいきサロン】

三朝町いきいき元気サロン(以下サロン)は、安心してイキイキと暮らせる町づくりをコンセプトに三朝町社会福祉協議会が主催している事業です。地域福祉活動事業の一環として高齢者の閉じこもり、介護予防、生きがいづくり事業の推進を目的としています。

現在三朝町内の地区公民館や福祉センターを会場に毎月6地区で開催しています。



《サロンの風景 高勢地区》

## 《苦勞する点》

・日頃の病院業務は、患者さんと1対1で接することが多いのですが、サロンでは1対複数人で実施するため、能力の異なる参加者さんに対応できる運動・体操のバリエーションを持ち合わせておく必要があります。また同一箇所に複数回行きますので、飽きられないような工夫をいくことも必要です。

・各サロンでの講演内容はメンバー間で共有できるようにしていますが、各メンバーが自分自身の言葉で説明していけるように基本ベースを發展させ、それぞれ創意工夫してパワーポイントを作っています。経験の浅いメンバーは、先輩メンバーの講演内容を参考にしてメッセージの伝え方や要点の絞り方を学びます。

・最も苦勞する事のひとつに、初めて行った場所で参加者といち早く打ち解けるためのコミュニケーションスキルが挙げられます。真面目な話ばかりではなく、時にはユーモアを交えて説明していくことも必要であり、メンバー間で練習を繰り返してから講演に臨むようにしています。

## 《メンバー紹介》

- ・近藤PT (賀茂地区) ・岩本PT (高瀬地区) ・別所PT (三徳地区)
- ・森PT (三朝地区) ・高見PT (竹田地区) ・團野PT (小鹿地区)
- ・青木PT (賀茂地区)

## 《抱負》

・笑い声が絶えない、またあの人の話が聞きたい、悪くなったら三朝温泉病院だと思っただけのような魅力的な講演・体操の提案をこれからもしていきます。



《サロンの風景 三朝地区》



《サロンを担当しているメンバー》

# リハ科のイチ押し



山口 洋司 理学療法士

日本糖尿病療養指導士(CDEJ)

Q 糖尿病療養指導士の資格取得を目指したきっかけは何ですか？

A 祖父・父ともに糖尿病だったので、糖尿病についてもっと知りたいと考え、CDEJの資格を取得しました。個人的で小さな動機から始まった資格取得ですが、現在は当院全体での糖尿病療養指導の一部に関わらせていただくようになりました。

Q 今後の抱負は…

A まだまだわからないこと、出来ないことも多いですが、CDEJを取得するまでは理学療法という一面からしか患者さんに接してこられなかったのが、少し違う角度から患者さんと接するようになったのは自分にとって良かったと思います。11月に鳥取県理学療法士学会でこれまでの活動を報告していきます。当院での取り組みをしっかりとアピールできればと考えています。

## 中部高次脳機能勉強会の紹介

～誰でもウエルカム！気軽に参加してみんなで勉強しましょう～

時は2004年、『高次脳機能』という言葉が世間に出始めた頃、高次脳機能障害とはいったいどういうものなのか、評価はどうすればよいか分からないうちにリハビリテーション関係者も多かった。そこで地域中核病院の神経内科医からの提案により2004年6月に記念すべき第1回目となる勉強会が開催された。神経内科に関連する職種は誰でも歓迎するという当初からのスタイルは今でも受け継がれている。ちなみに当院では勉強会が開催される前年からはすでに神経内科を中心に病棟で家族会の方を呼んだりしての勉強会の前身は動き始めていた。立ち上げから15年目を迎え、今年9月で第75回目の開催となる。他院から参加する作業療法士・言語聴覚士も増え、毎回ぎっくばらんに話し合いながら楽しく会の運営を行っている。

【主な参加メンバー】  
(当院)

神経内科医・作業療法士・言語聴覚士・理学療法士  
医事、看護師、MSW等  
中部地区勤務の作業療法士・言語聴覚士  
東部地区勤務の言語聴覚士

【勉強会内容】

症例検討・情報交換・脳科学についての講演  
研修会参加スタッフによる伝達講習  
高次脳機能について学習・高次脳機能検査等



《高次脳勉強会の風景》

## 第3回リハビリテーション科学術大会開催

9月13日(水) リハビリテーション科機能訓練室において第3回目となるリハビリテーション科学術大会が開催されました。この大会をステップにして、県学会、中国ブロック、全国へと繋がっていくことを期待しています。

《発表者》

- ・山口洋司 : 糖尿病教室での運動の結果提示がその後の運動習慣に及ぼす影響
- ・松本厚一 : 当院人工膝関節全置換術後、運動浴の実施率が身体・運動機能に与える影響
- ・加藤瑞希 : 症例報告 両TKA施行後、改善した膝関節屈曲角度を活かした立ち上がり・着座動作を目指した事例
- ・長野篤志 : 症例報告 腰椎圧迫骨折患者に対する理学療法の選択に難渋した症例
- ・松本 生 : 胃全摘・低栄養・糖尿病患者に対する補食とリハビリ負荷量の苦難
- ・藤原沙織 : 役割獲得により主体性が向上した事例
- ・大丸利沙 : 回復期脳卒中患者の排泄自己管理に向けたチームアプローチ
- ・白藤健輔 : 退院時リハビリテーション指導料について
- ・明里雅人 : 浴室を中心とした改修の関わり ～生活サイクルの変化～
- ・森 将志 : インソールの使用により歩行時の胼胝の痛みが軽減した1症例
- ・別所大樹 : 三歳児の足サイズと着用する靴の傾向
- ・岩本祐輝 : スマートフォンのリハビリ分野での活用とアプリ紹介

## <編集後記>

この度初めての試みとして、リハビリ通信を発行させていただきました。職員数も増え、スタッフそれぞれ院内外で活躍してくれています。彼らの活躍を紹介していく目的で、今後も定期的に発行していきますので宜しくお願いします。

文責: 山根 隆治

## 作業療法室大幅リニューアル

この度、作業療法室のキッチン部分を大幅にリニューアルしました。台所部分を土足禁止のフローリングに、その横に6畳の畳スペースを作り、職員の自宅で不要になった家電製品も持ち寄った結果、より台所らしいスペースになりました。

**ポイントは、「患者さんが靴を脱いで活動しても抵抗がない」という点です。**

入院中は土足で生活・リハビリしますが、靴を脱ぐと足の裏に入ってくる感覚や踏ん張りの力が変わるため、バランスを取りづらくなることがあります。よって実際の家事動作により近い感覚で練習することが出来ます。更に、床の水拭きのような土足部分ではやりづらい動作も練習しやすくなりました。

また、広い畳スペースができたことで「布団の上げ下ろし」「コタツへの出入り」「畳を歩く」「畳でござ寝」など練習できる動作が大幅に増えました。この設備を活用し、今後も作業療法士一同リハビリ業務に励みたいと思います。

